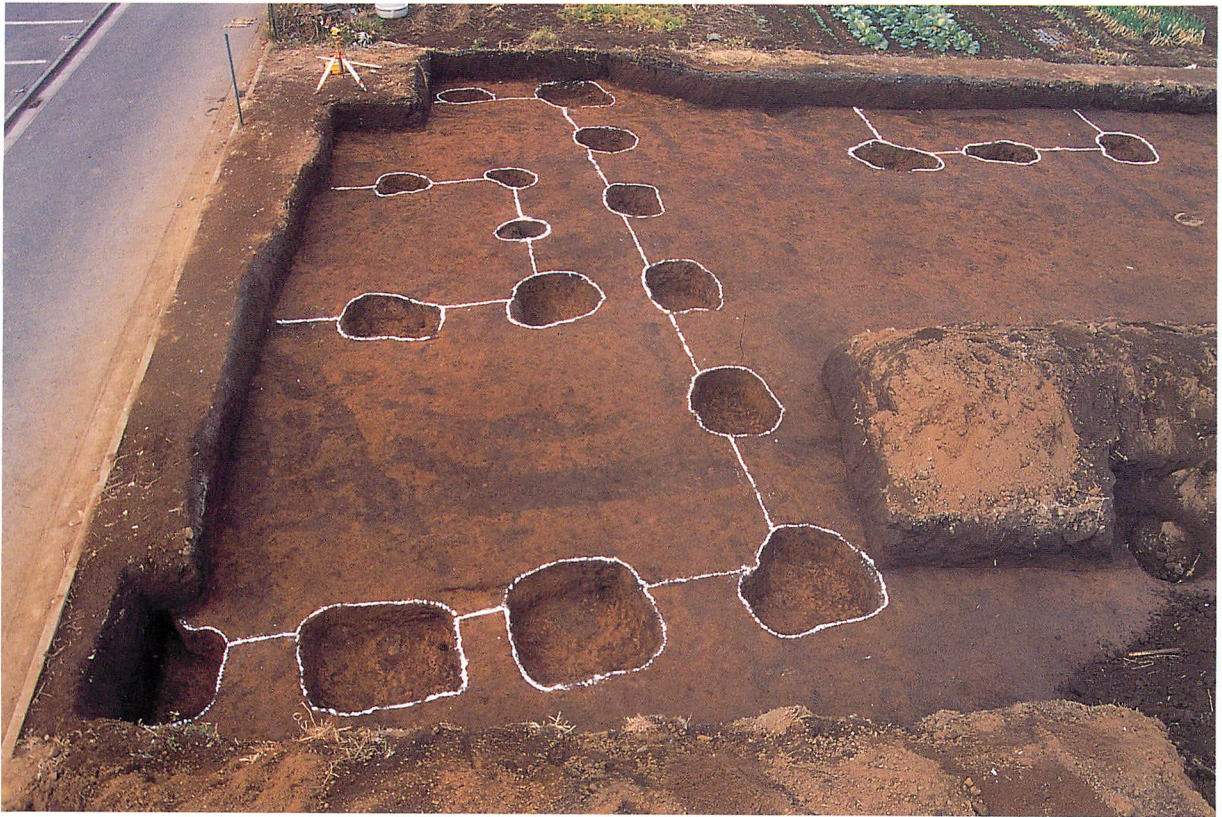




松山遺跡第1・2・3号掘立柱建物跡全景（東より）



松山遺跡第1・2・3号掘立柱建物跡全景（北より）



松山遺跡第18号住居跡全景（西より）



松山遺跡第1号掘立柱建物跡出土土器

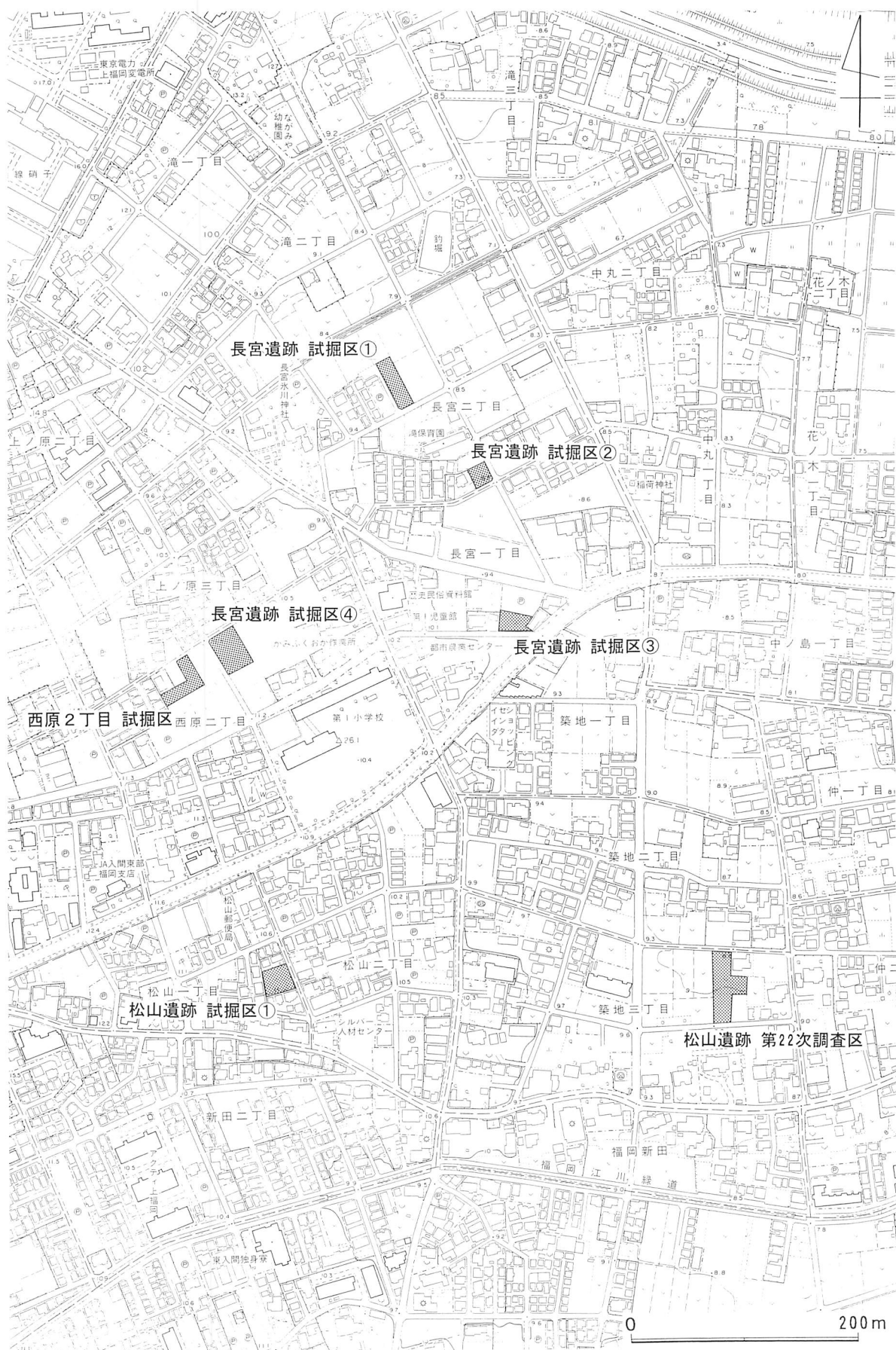
4

上福岡市内主要遺跡

- 1 南台2丁目B遺跡
- 2 北野遺跡
- 3 川崎遺跡
- 4 川崎横穴墓群
- 5 ハケ遺跡
- 6 上福岡貝塚
- 7 権現山遺跡
- 8 滝遺跡
- 9 長宮遺跡
- 10 松山遺跡
- 11 富士見台横穴群
- 12 南台1丁目遺跡
- 13 駒林遺跡
- 14 駒林中世墳墓
- 15 福岡新田遺跡
- 16 市金遺跡



第1図 遺跡位置図 (1/15000)



12. 松山遺跡 第22次調査

調査目的	個人住宅建設に伴う調査
所在地	築地3-4-15、23
調査期間	平成9年12月15日～12月24日
調査面積	419㎡
調査担当	市丸・笹森
概要	



作業風景（南より）

今回の調査区は、松山遺跡の範囲の南西隅に位置し、この地区の道路を隔てた北側隣接区は平成5年度に試掘調査を実施しているが、時期不明の溝が1本検出されたものの、遺物等は一切検出されていない。調査区は西側の土地境界線を基準にして、3m間隔で南北方向に幅2mのトレンチを6本設定した。12月15日より調査を開始し、重機による表土除去後、人力により遺構の精査に努めた。地表面から100cmほどでローム面に達し、1～3トレンチで集石遺構やピットを数基検出した。また、3トレンチでは住居跡と推察される遺構の一部が検出されたため、1～3トレンチ間を拡張し、遺構の精査に努めた。その結果、住居跡1軒（第18号住居跡）、掘立柱建物跡3棟（第1～3号掘立柱建物跡）、集石土坑7基（土坑第1～7号）を確認したため、12月18日から事業者の合意の上直ちに本格調査に移行した。第18号住居跡（PL2上）は、南北2.4m、東西4.6mの長方形を呈する。南壁に半円形の突出部をもつ。壁は比較的軟弱であり床面より垂直に立ち上がる。周溝は幅16～28cm、床面から深さ2～10cmほどである。柱穴と推測しうるピットは2ヶ所に検出されている。1本は南壁近くで直径20cm、深さ33cm、西壁近くで東西径36cm、南北径20cm、深さ27cmを測る。床面は全体的に踏み固められている。カマドは東壁中央部に付設されており、煙道部が壁外に約50cmU字状に張り出している。全長90cm、幅60cmを測る。全体を掘り込み粘土を用いて構築している。袖の内面及び火床面はよく焼けている。カマド内及び住居の覆土からは数片の土師器、須恵器片が検出されている。

第1号掘立柱建物跡の規模は東西5間、南北3間で東西12.3m×南北5.8mを測る。掘り方は楕円形もしくは隅丸方形であり、コーナーはL字形を呈する。柱痕の径は約25cmである。掘り方の覆土は暗茶褐色で、柱痕は同様に暗茶褐色であるが、幾分白みがかっており、粘性がある。掘り方の覆土中より須恵器の底部破片（PL2下）が出土しており、断定はできないが外側には「子」あるいは「年」という墨書が3文字縦に書かれていることが確認された。

第2号掘立柱建物跡の規模は東西2間、南北は2間以上であるが調査区外に続いているため不明である。掘り方は楕円形を呈する。掘り方及び柱痕の覆土は第1号掘立柱建物と同様である。

第3号掘立柱建物跡の規模は南北2間、東西は調査区外に続いているため不明である。南北4.2mを測る。掘り方は楕円形であり、コーナーはL字形を呈する。掘り方及び柱痕の覆土は第1号掘立柱建物と同様である。

集石土坑は、7基のうち土坑5以外は直径67～89cmの円形を呈し、深さ4～17cmと非常に

浅い。断面は緩い皿状のものと緩やかな角度で平坦な底面に至るものがある。加熱の形跡が認められ、縄文土器片が数点出土している。土坑5は、先述の土坑6基に比べて大きく、南北径102cm、東西径100cm、深さ39cmを測る。断面は緩い碗状を呈する。石の下から炭化物がまとまって検出された。底面の土はよく焼けている。遺物は検出されなかった。各遺構の写真撮影、図面作成後、12月24日に重機による埋め戻しを行い、同日中にすべての作業を終えて現地を撤収した。

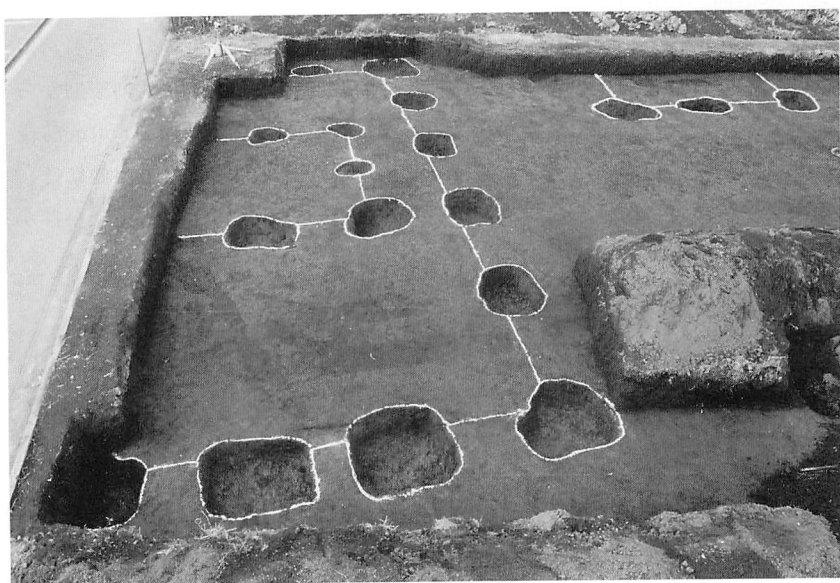
出土遺物	縄文土器、土師器、須恵器片		
調査結果	住居	1	(平安時代初頭)
	掘立柱建物	3	(奈良時代末期)
	集石土坑	7	(縄文時代)



第16図 松山遺跡第22次調査区全測図 (1/400)



○松山遺跡第1次1号住居跡（第8－3図参照）



○松山遺跡第22次1～3号掘立柱建物跡（第8－1図参照）